

公益財団法人京都地域創造基金 2014年度 事業報告

目 次

【概要と主な成果】	2
【公益目的事業：公益活動支援助成事業】	
1. 事業指定助成プログラム	5
2. チャリティプログラムの開発と実施	8
3. 冠基金による助成・褒賞プログラム	10
4. テーマ等提案型プログラムによる基金設置と助成	11
5. 遺産・相続地域活用センター	15
6. 特定寄附信託「きょうとのわ」による寄付募集・助成	16
7. NPO支援融資制度利子助成	16
8. 情報発信・啓発	17
9. 調査研究・政策提言	17
【法人運営（管理）事業】	
1. 機関会議の運営	19
2. 寄付者等の情報管理	19
3. ウェブサイト管理	20
4. その他	20
【付属資料】	
2014年度京都地域創造基金 助成褒賞選考委員会 選考会開催状況	21
2014年度きょうとふNPO活動支援融資制度およびきょうとNPO支援連携融資制度公益性審査委員会公益性審査委員会開催状況	23

【概要と主な成果】

2014年度は設立から5年間の経験と社会的な状況を踏まえプログラムの開発、改善を実施した。特に「地域の未来協創プログラム」は今後の京都地域創造基金の役割を展望する上で非常に重要なチャレンジであり、今後引き伸ばしていく必要があるプログラムである。

一方で経営的なモデル形成については、助成に向かう寄付総額が過去最大（震災関連寄付を考慮した上での目安）となるなど取り組み自体順調に進んでいるが財団自体の経営は厳しい状況が続いている。

次年度は「第2次中期経営計画」を定め、今後5年間の中期的な目標と行動計画をとりまとめ、それらの取りまとめ完了と2014年度の決算を踏まえ、改めて詳細な事業計画の策定を行うが、年度当初の具体的な事業内容とスケジュールを設定する上で、重要な課題は以下の通りである。

■ 資金仲介についての成果数値 —寄付・助成プログラムの成果—

2014年度は、前年度までの寄付に加え新たに頂いた**約4,861万円**の寄付をもとに、市民による地域になくてはならないNPO・市民活動を支え、地域課題解決に貢献することができた。

- ・ 事業指定型の助成プログラムでの助成：**約735万円**（寄付募集助成対象：のべ34事業）
- ・ 地域団体とNPO法人の連携促進事業での助成：**約158万円**
- ・ 冠基金の助成：**約466万円**（助成交付済額）
- ・ テーマ別基金での助成：**約179万円**（助成交付済額）
- ・ 協創プログラムでの助成：**1,000万円**（助成交付済額）
- ・ 融資制度利子助成：**約159万円**（利子助成済額）

各プログラムと冠基金への寄付額のうち1-10%程度（事業による）と財団運営への寄付はそれぞれの助成プログラムや寄付募集の費用としても活用。

■ 融資制度による成果数値

- ・ 「きょうとふNPO活動支援融資制度」（制度受付終了）融資額：累計3,780万円／38件
累計利子助成額：約11万円 ＊当財団は公益性審査と利子助成のみを実施。
- ・ 「きょうとNPO支援連携融資制度」融資額：累計1億5,676万円／42件
利子助成額：約148万円 ＊当財団は公益性審査と利子助成のみを実施。

■ NPO法人向け無利子融資制度の運用

当財団設立当初から取り組んできた行政、地元金融機関との連携無利子融資制度を運営した。

融資相談、融資実行件数とも制度がリニューアルされた昨年度より微減したが、NPO法人が新規事業やつなぎで必要とする資金ニーズがより鮮明になり、NPO法人が地元金融機関から融資を受け易い制度として充実してきたことで、それらのニーズに応えることができた。

地元金融機関と複数の自治体が参画する、無利子融資制度としては全国には他になく、注目と評価も高い。

次年度以降、これらの資金ニーズに融資制度を通じて応えとともに、より柔軟で費用対効果のある、また融資先の成果があがる制度に改善していく努力をつづけていく。

■ 全国の中間支援組織／市民コミュニティ財団との連携

2011年度より全国の同種の財団との連携とノウハウ移転、共有を深めてきたが、今年度は全国の市民コミュニティ財団同士のさらなるノウハウの移転と連携による機能強化を行なってきた。

またその連携の中で、全国コミュニティ財団協会が設立され、さらなる連携と日本における市民コミュニティ財団の知名度や信頼の向上、事業拡大を目指すこととなった。

■ 寄付信託商品のリリースと第1号契約実現

23年度より継続的に研究、開発を行ってきた特定寄附信託制度を活用した特定寄附信託商品「きょうとのわ」をトランスバリュー信託株式会社の信託商品として実現し、25年9月から取扱いが可能となった（リリースは26年1月）。日本初の地域循環・貢献型の寄附信託商品として、まだまだ日本社会に根付いていない信託を利用した寄付を促すため、プロモーションに積極的に取り組んだ。

その成果として26年3月に第1号の寄附信託契約が実現した（5年間、総額100万円）。次年度以降、寄附信託による契約者の寄付満足度向上のための取り組みと寄付指定先とコミュニケーションに力をいれながら、さらなる契約実現に取り組んでいく。

■ 京都市との協働：「地域団体とNPO法人の連携促進事業」

2012年度より京都市と協議を行ってきた、自治体の補助金（税）と寄付をマッチングしNPO等を支援する制度として、「地域団体とNPO法人の連携促進事業」を京都市の委託事業として昨年度に引き続きに実現することができた。

今年度は目標を10事業としたが、8事業の採択、それらの事業への寄付募集を行ない、寄付目標額を達成することができ、これまでとは異なるファンドレイジング手法や寄付の受皿づくりを見いだすことができた。

この制度について、寄付額をさらに増加させるとともに、自治会町内会とNPO法人の連携による地域課題解決とファンドレイジング手法の事例を多く確立していく。

■ 運営基盤強化

今年度も昨年から引き続き運営基盤の強化と運営財源の獲得が急務であり、重要課題であった。

京都地域創造基金を運営財源の獲得と信頼知名度の向上に取り組む組織として設立された「京都地域創造基金を支える会」の会員の募集や事務を行なった。2015年3月には京都地域創造基金設立6周年に合わせ、広報と運営資金集めのために京都新聞に新聞広告を掲載した。

■ 表彰等（社会からの評価）

これまでの取り組みと成果が評価され、各種メディアに掲載された。

- ・ 2014年4月10日 日本経済新聞（夕刊）公益財団法人資源出し合い地域を磨く
- ・ 2014年6月号 フィランソロピー

設立からの5年を振り返り変わったこととこれからの目標

- ・ 2014年9月1日 月刊福祉 若年性認知症の就労支援
- ・ 2014年10月16日 朝日新聞 社説「社会的投資」を突破口に
- ・ 2014年11月号 公益法人 特集 座談会 コミュニティ基金創設100年
- ・ 2014年12月11日 京都新聞 寄付金付きメニュー 学食で子どもを支援
- ・ 2015年1月14日 京都新聞 多様な寄付のあり方

【公益目的事業：公益活動支援助成事業】

1. 事業指定助成プログラム

(1) 第1期から8期継続、第9期新規事業

事業計画に基づき、第1期～第8期までの採択事業継続の選考、寄付募集・助成を行うとともに、新規として第9期の助成先の募集、決定、寄付募集と助成を行った。（第9期の寄付募集・助成は2015年度～）をおこなった。概要は下記の通り。

- ・ 第1期・3期・4期・6期・8期継続

助成公募期間：2014年12月25日から2015年2月2日

事業指定助成プログラム助成選考会を開催し、助成先を決定（開催日：2015年3月9日）

選考会概要：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/cn9/cn12/jigyoushiteisenkou.html>

継続採択事業数：寄付開拓コース 6事業（寄付募集総額（助成目標額）：29,600,000 円）

通常コース 4事業（寄付募集総額（助成目標額）：3,810,000 円）

助成先：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/jigyosaitaku1346.html>

* 寄付募集助成期間2015年4月1日から最大1年間

- ・ 第2期・5期・7期継続

募集期間：2014年8月20日から9月22日

事業指定助成プログラム助成選考会を開催し助成先を決定

※選考会の日程調整を複数回行なったが開催できる日がなく、事前選考の状況からも助成褒賞選考委員会設置要領に基づき書類による選考を行なうことを10月31日に決定した。

事前選考：2014年9月24日(水)～10月10日(金)

本選考：2014年10月31日(金)～2014年11月13日(木)

追加選考：2014年11月13日(木)～2014年12月4日(木)

選考会概要：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/cn9/cn12/jigyoushiteisenkou.html>

継続採択事業数：寄付開拓コース 1事業（寄付募集総額（助成目標額）：7,332,600円）

通常コース 7事業（寄付募集総額（助成目標額）：11,780,000円）

助成先：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/jigyosaitaku25.html>

* 寄付募集助成期間2014年12月1日から最大1年間

・ **第9期**

助成公募期間：2014年12月25日から2015年2月2日

事業指定助成プログラム助成選考会を開催し、助成先を決定（開催日：2015年3月9日）

選考会概要：下記ウェブサイトで公開

・ http://www.plus-social.com/cn9/cn12/jigyoushitei_senkou.html

最終採択事業数（新規のみ）：

寄付開拓：1事業（寄付募集総額（助成目標額）：2,420,000円）

通常：2事業（寄付募集総額（助成目標額）：3,500,000円）

助成先：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/jigyo/saitaku8.html>

* 寄付募集助成期間2015年4月1日から最大1年間

2014年度 当財団事業計画上の事業指定寄付目標：1,500万円 → // 寄付実績（寄付確定分）：約856万円（371件） *2013年度：約1,483万円（593件）

2014年度 事業指定助成実績：約735万円 * 前年度寄付からの助成分含む。原則寄付額の95～99%を助成

採択事業への寄付を獲得するために、特に寄付開拓コース採択団体に対し訪問（平均2回/団体）や集合研修（開催回数：2回）を実施し、事業指定先のエンパワーメントに取り組んだ。

また、前年度に引き続き、事業指定寄付カタログを作成、配布。寄付先専用のウェブページを作成、公開した。

課題として、寄付開拓コースへの体系的な寄付募集支援が不十分で、財団としてのファンドレイズキャンペーンや展開に新たに取り組むことができなかった。

寄付開拓コース採択団体の寄付募集額の達成に各団体に合わせた支援やファンドレイズをおこなっていくことに役職員、ボランティアが協力し合いながら責任感をもって取り組んで行くことが次年度の重点課題である。

(2)自治体と連携した基金（助成プログラム）の開発と実施

■ 地域団体と NPO 法人の連携促進事業（京都市委託事業）

自治体と連携したコミュニティ組織等への寄付と税のマッチング助成プログラムを京都市との協働（委託事業）で実施した。

助成先の公募、地域団体（自治会町内会等）とNPO法人のマッチングによる申請団体の開拓、助成選考、団体への支援と寄付募集を積極的に行ない、集まった寄付と京都市からの補助のマッチングにより助成を行なった。

寄付と税をマッチングし、地域団体とNPO法人の協働による事業を支援する新しい寄付の仕組みとして評価され、またプログラムとしての寄付目標額も達成することができた。

さらにこの輪を拡げて行くために京都市と引き続き協働し、次年度も継続して実施する予定である。

■ 助成プログラム概要、助成先決定

- ・ 委託契約額：80 万円
- ・ 助成応募期間：2014 年 7 月 4 日から 9 月 1 日
- ・ 応募件数：8 事業
- ・ 助成選考会（2014 年 9 月 30 日）で、助成先 8 事業を決定。
（寄付募集総額：1,575,000 円）
- ・ 選考会概要：下記ウェブサイトで公開
<http://www.plus-social.com/cn9/cn12/senkoukai.html>
- ・ 助成先及び活動報告：下記ウェブサイトで公開。
<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/renkei.html>
- ・ 寄付総額：¥1,578,417- (212 件)
- ・ 寄付募集期間：2014 年 10 月 31 日から 2015 年 3 月 9 日
- ・ 助成総額：¥1,187,550-

2. チャリティプログラムの開発と実施

京都橘大学の学生生協との寄付付き商品の開発、Send LOVE PROJECTとして、募金箱の展開等に取り組んだ。

(1) Send LOVE PROJECT

Send LOVE PROJECTとして募金箱設置場所の開拓を行い、募金活動を行った。また、募金をベースとし、企業等の実施するチャリティイベントへの参画、連携実施を行った。

なお、同プロジェクトでは、ファンドレイジングボランティアとともに募金箱設置場所の開拓を行った。

また、今年度新規の取り組みとして、事業指定助成・寄付開拓コース採択団体である「テラ・ルネッサンス」のスタッフ、インターン生、ボランティアと協働した募金箱設置拡大プロジェクトを前年から継続し、募金箱設置提案営業の研修等を行ないながら、当財団とNPOの協働募金プロジェクトのモデルづくりに取り組んだ。（現設置個数：73個）

- ・今年度の募金（イベント募金含む）累計額：371,508円（62件）

※事例は、<http://www.plus-social.com/sendlove/event.html> にて一部を公開。

(2) チャリティイベントへの参画・協力

企業等が実施するチャリティイベントに参画、協力、または提案等を行い、イベントを実施した。主なイベントは以下のとおり。

○「故郷を守ろうproject」チャリティコンサート（キッサコ主催）

- ・2014年11月8日 場所：円山公園音楽堂

寄付額：チャリティブースの募金額（18,434円）

キッサコCD売上、コンサート収益などから（124,910円）

寄付先：京都こどもファンド

○京都音楽家ボランティア基金チャリティコンサート（音楽工房京の音屋主催）

2014年5月17日 寄付額：64,800円／参加者数：約50人

2014年10月24日 寄付額：33,300円／参加者数：約50人

場所：ザ・パレスサイドホテル／寄付先：上記の通り

○第3回ほづがわチャリティファンラン（実行委員会主催）

2014年11月30日 場所：保津川右岸河川敷広場大会本部（京都府亀岡市保津町梁瀬）
寄付額：30万円 / 寄付先：母なる川保津川基金 / 参加者数：約300人

そのほか、京都市主催イベント等での募金ブース出展など、積極的にイベント出展などで寄付と広報に取り組んだ。

（3）寄付付き商品等の開発

主に各テーマ別基金への寄付を目的とした寄付付き商品の開発を行った。新たに今年度実現、発売した商品は以下のとおり。

- ・丹波ワイン（株）と京都信用金庫が連携し、京都信用金庫の住宅ローン完済者に送る記念ワインの売上の一部を寄付をしてくれている。
- ・中古車買い取り業者の旭商会在が中古車買い取り一台あたり500円を事業指定助成プログラムの団体に寄付してくれている。

など

その他、新規商品開発のために、企業への提案、営業を行なった。

（4）マイキフの開発と提供

2013年から開始した自動課金による継続寄付の呼びかけを行なった。

- ・2014年度申込件数：13口 累計23口（年間継続寄付予定総額：910,000円）

次年度は、手間をかけずに継続的に支援を行なうことできる寄付の仕組みとして、また財団のコストとリスクの面からクレジットカード決済の継続寄付利用者を重点的にひろげていく。

（5）財団を支えるチャリティプログラムの検討と実施

■「京都地域創造基金を支える会」寄付受け入れ

前年度に発足し、2014年11月に決算を迎えた。事務運営や新聞広告協賛による寄付の受け入れなどを行なった。

2014年度の新規会員は4名(団体) 現在12名(団体)

詳細は、支える会ウェブサイト参照 <http://sasaeru.kyoto.jp/>

■ 寄付キャンペーンの実施

当財団の運営を支える寄付キャンペーンとして、歳末に寄付キャンペーンを実施した。

- ・ 期間：2014年12月
- ・ 方法：約60名に運営へ支える会の案内と寄付依頼の手紙を送付し、その他個別に運営寄付依頼等を行った。
- ・ 寄付額：28万円（15名）

■ 財団事務所オープンデー

2015年8月に事務所を移転したため、近隣の住民とのコミュニケーションやこれまでの支援者、ステークホルダーとのコミュニケーションのためにオープンデーを開催した。

- ・ 実施日：2014年8月7日
- ・ 来場者数：39名
- ・ 内容：過去の事業についての展示。寄付付き商品の販売など

3. 冠基金による助成・褒章プログラム

2014年度は新たに2つの基金を設置し、主に6件の冠基金による助成プログラムの運営を行い、今後にもむけた冠基金構築のための寄付開拓・営業を行った。

(1) 京都南ライオンズクラブ結成50周年記念子ども・青少年育成基金

前年度に京都南ライオンズクラブの50周年記念事業の一環として、100万円の助成を行なう基金を設置し、助成先を決定した。

助成事業終了後に寄付者である京都南ライオンズクラブの例会にて、実施内容を報告した。

(2) 若年性認知症サポートファンド

過去2年間の助成により明らかになった社会的な課題にアプローチできるよう協創プログラムの以降を含め、今後の展開を過去の助成先と検討している。

(3) +FUNファンド

個人1名（非公開）からの寄付をもとに、その意向にそって、社会に面白さをプラスする市民活動、あったら面白いという市民活動に助成をし、地域をよりよくすることを目的に23年8月に設置した。今年度は寄付者の都合により、寄付の受け入れをし、助成は次年度に繰り越す。

(4) 頭頸部がん患者支援基金

2013年度に設置し、寄付者の意向を踏まえ、頭頸部のがん患者が必要とする支援を行なう活動に助成をするため、がん患者の支援団体や医療関係者にヒアリングや調査をこれまでに4件実施した。

次年度、助成内容を決定し、助成先の公募を行なう。

(5) 三井相続会福祉基金記念福祉基金

(財)三井相続会は公益法人制度改革に伴い、2014年度に解散し、残余財産をその公益目的に沿って、当財団が寄付として受け入れ、冠基金を設置した。

2014年度は、特に学校等教育機関が障がいをもつ子どもの学習・教育環境を充実させるために行う設備や備品整備事業に助成した。次年度以降にも新たな助成趣旨で助成をおこなう。

- ・ 助成総額：約500万円
- ・ 残額：約500万円

また助成に伴い、贈呈式を行なった。

- ・ 贈呈式日時：2014年10月24日
- ・ 会場：京都府庁旧本館
- ・ 参加者：寄付者、選考委員、助成先などから合計16名

(6) 乙訓お祭りごみゼロ応援基金

祇園祭ごみゼロ大作戦の取組を受け、さらにこの「ごみゼロ」の取組を広げようと乙訓環境事業協同組合の協力と複数企業からの寄付により設置した。

- ・ 助成総額：130万円

4. テーマ等提案型プログラムによる基金設置と助成

2014年度は、計6基金を設置、1プログラムを新設し、うち4件で助成を実施した。

2014年度 テーマ別基金トータル寄付目標：300万円

→ 寄付実績：2,018,360円（69件）

*助成実績：約795万円（助成金交付済額のみ） *前年度以前の寄付からの助成含む。

(1) 災害ボランティア支援基金

2013年度から引き続き対象を東日本大震災被災地に限らず、今後の災害も含めた趣旨に変更をし、寄付募集を行なっている。

なお、本基金から助成を行なうべき状況は発生しなかったため、今年度は助成を行なわなかった。

2014年度中の寄付額：約15万円（19件） 助成可能額：約60万円

(2) 城陽みどりのまちづくり基金

2009年度からの基金設置および寄付募集、市民活動団体への助成を経て、2014年度も継続して基金を設置した。城陽市内で行なわれる市民主体のみどりを通したまちづくり活動を支援することを目的に寄付を募集した。2014年度は企業や団体・個人の方からのご寄付、イベントでの募金や店舗等設置の募金箱、特に公共施設や市民のご協力で設置した自動販売機からの売上寄付が多くを占め、基金を構築した。

下記の通り、助成先を決定した。2015年度も継続設置し、寄付を募集、助成を行う予定。

- ・ 助成対象寄付募集期間／2014年1月1日～12月31日
- ・ 寄付金総額（前年度からの繰越金¥444,222-を含む）／¥1,383,505-（21件）
当初計画助成目標額：100万円
- ・ 助成申請期間：2014年12月3日～2015年1月22日
- ・ 申請数：5事業
- ・ 助成選考会（2015年3月16日）で、助成先5事業を決定、1事業を保留。現在選考中。（助成総額：435,000円）
- ・ 選考会概要：下記ウェブサイトで公開
http://www.plus-social.com/cn9/cn12/jyoyo_senkou.html
- ・ 助成先及び活動報告：下記ウェブサイトで公開
<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/joyo/josei2013.html>

(3) 母なる川・保津川基金

NPO法人プロジェクト保津川とカップ研究会の設置申請を受け、2010年度に設置し、17団体の協力のもと、2014年度も母なる川・保津川基金を継続設置した。

保津川流域を含む桂川の全流域における課題解決に向けて、さまざまな活動を行う市民活動団体の活動を支えるための第3回助成先募集（主に前年度開催されたほづがわチャリティファ

ンランからの寄付をもとに)を行い、助成先を決定、助成を行った。また第3回チャリティファンランや寄付付き商品の拡大、販促を通じてさらなる寄付募集、開拓を行った。

■ 第3回助成先公募・助成先決定

- ・ 寄付金総額（前年度からの繰越金¥281,841-を含む） / ¥727,883-（10件）
当初計画第3回目助成目標額：50万円
- ・ 助成申請期間：2015年1月13日から1月30日
- ・ 申請数：5事業
- ・ 助成選考会（2015年2月25日）で、助成先2事業を決定。（助成総額：470,000円）
- ・ 選考会概要：下記ウェブサイトで公開
http://www.plus-social.com/cn9/cn12/hozu_senkou.html
- ・ 助成先及び活動報告：下記ウェブサイトで公開
http://www.plus-social.com/cn9/cn13/hozu_jyoseisaki01.html

■ チャリティイベント／寄付付き商品

実行委員会を主体とし、NPOや亀岡市等も協力し、前年度に続き、第3回ほづがわチャリティファンランが開催された。寄付（約30万円）は2015年度以降チャリティファンランでの寄付として助成先公募を行う予定。

（4）京都こどもファンド

2010年度に設置し、京都きつぷプロジェクトと協働で設置運営する、「京都こどもファンド」への寄付募集を行った。また過去の助成先に現在の社会的な課題についてアンケートを行ない、2015年度以降の助成テーマを検討した。

- ・ 2014年度末までの寄付額：¥3,328,111（128件）
- ・ 2014年度末時点での助成可能額：351,388円

（5）京都ユースアクションファンド

22年度に若者によるソーシャル事業を支援することを目的に設置した。現在は寄付の受け入れを停止している。

- ・ 2014年度末（2015年3月31日）までの寄付額：¥88,500-（9件）

(6) 京都音楽家ボランティア基金

2010年度に、「音楽工房京の音屋」からの相談、提案を受け、寄付によりプロの音楽家によるボランティア活動を広げ、支援するための基金として設置。

継続的な助成財源をつくるため、チャリティコンサートが「音楽工房京の音屋」等により2回実施され、寄付を受け入れた。また映画関係企業から寄付付き映画チケットを通年で販売いただき、その売上寄付も受け入れていた。

今年度は助成申請がなく、周知が本基金の課題である。

■ 助成先公募（通年）・助成先決定

- ・ 今年度寄付総額：¥121,027-／累計寄付総額¥875,813-（44件）
- ・ 助成応募期間：通年

当初計画助成目標額：30万円

- ・ 選考会概要：下記ウェブサイトで公開

http://www.plus-social.com/cn9/cn12/ongakuka_senkou.html

- ・ 助成先及び活動報告：下記ウェブサイトで公開。

http://www.plus-social.com/cn9/cn13/ongaku_jyoseisaki.html

(7) 京都環境フロンティア基金

2010年度に環境保全のための寄付の受け皿として、生物多様性の保全を初年度テーマにした市民活動を支援することを目的に設置した。現在は寄付の受け入れを停止している。

- ・ 2014年度末（2015年3月31日）までの寄付額：¥8,502-（5件）

(8) いのちの里京都村応援基金

2012年度「NPO法人いのちの里京都村」から設置申請を受け、寄付募集を開始した。

設置申請者主体のもと、主に寄付付き商品（新規商品としては、鹿肉まん等）を中心とした寄付開拓に取り組み、助成先の募集、決定を行なった。

- ・ 2014年度末（2015年3月31日）までの寄付額：¥450,617-（17件）

当初計画助成目標額：50万円程度

- ・ 申請期間：2014年12月1日から2015年1月20日
- ・ 申請件数：4件
- ・ 助成申請総額：740,000円

- ・ 助成決定額：130,000 円

・

(9) 地域の未来協創プログラム FLAG001「祇園祭ごみゼロ」

2013年度にFLAG001を設置し寄付募集及び助成を行なった。

■ 第1回助成先公募・助成先決定

- ・ 寄付金総額／¥10,688,650- (128 件)

当初計画助成目標額：1,000 万円

- ・ 助成申請期間：2014年6月6日から6月20日
- ・ 申請数：1 事業
- ・ 助成選考会(2014年6月24日～30日)で、助成先1事業を決定。(助成上限額：8,000,000円)
- ・ 選考会概要：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/jigyo/kyoso/01.html>

- ・ 助成先及び活動報告：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/mirai.html>

■ 第2回助成先公募・助成先決定

- ・ 寄付金総額／上記の通り
- ・ 助成申請期間：2014年9月24日から10月6日
- ・ 申請数：1 事業
- ・ 助成選考会(2014年10月8日～16日)で、助成先1事業を決定。(助成総額：2,000,000円)
- ・ 選考会概要：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/jigyo/kyoso/01.html>

- ・ 助成先及び活動報告：下記ウェブサイトで公開

<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/mirai.html>

5. 遺産・相続地域活用センター

2012年度設置した「遺産・相続地域活用センター」の連携先土業の拡大、専用電話番号を含めた広報活動に取り組んだ。

- ・ 今年度は特に広報に注力し、ポスターを新規作成、チラシをリニューアルした。チラシ、ポスターは高齢者等、遺産等の潜在的寄付者層をねらい、それらの層が訪問する施設や店舗等に協力を依頼、配布・掲示をした。

6. 特定寄附信託「きょうとのわ」による寄付募集と助成

2014年3月に(5年間、総額100万円、えらべるコースによる事業指定寄付)締結した契約について寄附信託による契約者の寄付満足度向上のための取り組みと寄付指定先とコミュニケーションに取り組んだ。しかし、さらなる契約締結には繋がっていない。

7. NPO支援融資制度利子助成

(1) きょうとふNPO活動支援融資制度

前年度に引き続き、同融資制度の運営を行なった。下記の制度リニューアルがあり、今年度は新規の公益性審査や融資実行はなかったが、これまでの利子助成

- ・ 2014年度内の利子助成（2013年度までの融資先に対して）：44,9754（2件）
 - ※ 公益性審査委員会、融資先、事業内容・成果については下記HPに随時掲載
http://www.plus-social.com/cn9/cn12/yushi_iinkai.html
http://www.plus-social.com/cn9/cn13/yushi_jyoseisaki12.html

(2) きょうとNPO支援連携融資制度

今年度は、「公益性審査委員会」（今年度6回実施）において、融資案件の公益性の審査と助成の可否について審査を行った。

- ・ 2014年度公益性審査による公益性あり案件：16件
- ・ 2014年度融資実行件数：18件（融資総額6,330万円）
 （うち5件、1,800万円は2013年度に公益性ありと判断された案件。）
- ・ 利子助成：148万円（36件）
 - ※ 公益性審査委員会、融資先、事業内容・成果については下記HPに随時掲載
http://www.plus-social.com/cn9/cn12/yushi_senkou.html
<http://www.plus-social.com/cn9/cn13/yuushi13.html>

なお、制度運営財源の捻出、融資実行までの時間や手間の削減、融資相談や今後増え続ける融資先への利子助成方法などに大きな課題があり、次年度以降、京都府、京都市と協議を行なうこととした。

8. 情報発信・啓発

(1) ウェブマガジン【Web-civien】発刊

当財団のウェブマガジンとして今年度3号発行した。

主にメールマガジン、SNSを通じて配信したが、閲覧者数は少なく、配信方法に課題がある。

- ・ 2014年度の発行件数 第17号～19号
- ・ 内容：寄付先活動や成果紹介／ユニークな寄付事例紹介／寄付税制など

<http://www.plus-social.com/jigyo/webcivien/webcivien.html> から閲覧可能。

(2) メールマガジン【civi・e・news】

- ・ 4月から9月までは毎月1回（月初）の定期発行（6回）し、10月からは随時発行に変更した。
- ・ 内容：寄付者やNPOなど全ステークホルダーに対し、最新情報の提供により寄付や支援を得るために定期送信をし、また主にNPO向けに助成情報を伝えるための助成金情報を随時送信した。

(3) 講演、情報誌・機関誌等への寄稿、情報提供等

外部からの依頼に対応し講師派遣事業として、主に理事長、事務局長が各種講演・フォーラムに登壇したり、情報誌等に寄稿したり、当財団の理念と事業を広く伝えることに努めた。また全国での財団設立や検討、関心の高まりを受け、ヒアリングや調査への対応、情報提供も行った。

9. 調査研究・政策提言

(1) 税制（寄付税制等）に関する調査研究と政策提言

■ 寄付税制、公益法人制度等について国や関係機関への政策提言

共助社会づくり関連の政策、市民公益税制、得て寄附信託制度の改善、みなし譲渡課税大賞の改善について、当財団のミッションと理念に基づき、理事長を中心とし、国や関係省庁、団体に提言を行った。

- ・ 内閣府共助社会づくり懇談会委員、資金グループ座長（深尾）
- ・ 経済財政諮問会議 選択する未来委員会 委員（深尾）

(2) 多様な寄付と資源仲介の仕組みに関する調査研究

■ 不動産利活用プログラムの研究

2014年度も継続して、遺贈や寄付による不動産の利活用プログラムの研究を行った。京都市都市計画課、不動産業界団体等との情報交換を行った。また福祉事業を行なうNPO法人と行政書士との学習会を定期的に開催した。

■ その他

国での利活用方法の検討がすすめられている休眠預金について、市民公益活動やソーシャルファイナンスの視点から、深尾理事長を中心に、政策提言等を行なった。

またソーシャルインパクトボンドやPRIなど海外で展開されはじめている新しい資金スキームをいかした手法の研究も行なった。

(3) NPOの社会的認証／助成先成果（社会的インパクト）の可視化と評価に関する研究と支援

- ・ 寄付による助成先の信頼性を担保し、NPOの社会的信頼を高めるため、NPO法人きょうとNPOセンター、「(一財)社会的認証開発推進機構」と適切に連携し、財団の運営、特に助成事業の申請要件に認証を活用した。
- ・ 寄付を原資とする助成財団として、社会的インパクトの評価と当財団事業成果の可視化が重要であるとの認識を確認し、評価手法について検討を行なった。

【法人運営（管理）事業】

1. 機関会議の運営

（1）理事会の開催

理事会を5回開催した。

- ・第1回理事会（2014年6月3日）2013年度事業報告及び決算案、評議員会開催内容等
- ・第2回理事会（ // 9月22日）下半期事業展開における重点課題の協議等
- ・第3回理事会（ // 12月9日）助成褒賞選考委員選任、運営財源の調達等
- ・第4回理事会（2015年2月13日）新規冠基金設置、運営財源の調達等
- ・第5回理事会（ // 3月17日）2015年度事業計画及び予算 等

（2）評議員会の開催

評議員会を1回開催した。

- ・第1回評議員会（2014年6月12日）2013年度決算書類決議、役員を選任等

（3）監査の実施

- ・監事が全5回の理事会にいずれにも出席し、業務監査を実施。
- ・2014年5月19日、21日に2013年度の監査を実施し、全監事が監査報告書を作成した。

2. 寄付者等の情報管理（Donor Relationship Management）

個人情報保護規定等に従い、今年度も寄付者等当財団支援者の情報管理を徹底するとともに、メールマガジンやDM等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、Salesforce社のシステムを利用、データベースの運用、随時データベースのリニューアル等を行った。

他地域の市民コミュニティ財団へのノウハウ移転や支援等のニーズからデータベースのプログラムをパッケージ化、利用方法のレクチャーとフォローアップとともに、移転提供した。

※Salesforce：CRMクラウドサービスを提供する業界トップのグローバル企業。NPO法人等への無償提供プログラムなどCSRにも積極的に取り組む。<http://www.salesforce.com/jp/>

3. ウェブサイト管理 <http://plus-social.jp>

事業の進捗にあわせウェブサイトのコンテンツとデザインを追加・改善し、的確かつ迅速に寄付募集情報、助成要項の開示、事業成果、寄付者への報告、メディア掲載情報等を広く伝えることができた。

また、寄付申込とクレジット決済サイトについて、寄付者やNPO等からの声をふまえ、自動継続寄付（クレジットカード、口座自動引き落とし）の申込を行なえるようにサイトの改良を行なった。

<https://www.plus-social-donation.jp/form.php>

4. その他

(1) 研修の受け入れ

- ・京都府から職員1名を研修で受け入れた。（2014年4月1日～2015年3月31日）

(2) 財団運営事務と管理体制整備

- ・事務局体制：経営状態を踏まえ、若干の体制縮小を行なった。
- ・公益法人運営事務：2013年度事業報告、役員改選による変更届を提出（2014年6月19日）、2015年度事業計画・予算の届出（2015年3月31日）を行った。

■ 職員の研修とスキルアップ

- ・下記をテーマとした書籍等の購入を行い、職員の知識とスキルアップを行った。
公益法人運営実務、会計関連／ファンドレイジング関連／マーケティング関連

以上

2014年度 京都地域創造基金 助成褒賞選考委員会
選考会開催状況

*時系列表記

■ 祇園祭こみゼロプロジェクト第一次助成選考会

- ・ 選考 : 2014年6月24日~2014年6月30日
- ・ 回答 : 委員5名(総委員5名)
- ・ 助成選考結果 合計1事業 / 8,000,000円 (助成上限額) の助成を決定

■ 事業指定助成プログラム第2期・5期・7期継続 助成選考会

- ・ 事前選考 : 2014年9月24日~10月10日
- ・ 選考 : 2014年10月31日~2014年11月13日
- ・ 回答 : 委員6名(総委員6名)
- ・ 助成選考結果
寄付開拓 合計1事業 / 2,000,000円(助成上限額) の助成を決定
通常 合計6事業 / 9,850,000円(助成上限額) の助成を決定

■ 地域団体とNPO法人の連携促進事業 助成選考会

- ・ 日時 : 2014年9月30日 10:15~12:10
- ・ 場所 : 京都地域創造基金オフィス(上京区出水町284)
- ・ 出席者 : 委員4名(総委員7名)他3名
- ・ 助成選考結果
合計8事業 2,750,000円(助成上限額、京都市補助117.5万円含む) の助成を決定

■ 祇園祭こみゼロプロジェクト第二次助成選考会

- ・ 選考 : 2014年10月8日~2014年10月16日
- ・ 回答 : 委員5名(総委員5名)
- ・ 助成選考結果 合計1事業 / 2,000,000円の助成を決定

■ いのちの里京都村応援基金 第1回助成選考会

- ・ 日時：2015年2月16日 13:00～15:00
- ・ 場所：京都地域創造基金オフィス
- ・ 出席選考委員／委員総数：5名／5名
- ・ 助成選考結果 合計1事業／100,000円 助成決定 1事業保留のため審査中

■ 母なる川・保津川基金 2014年度 助成選考会

- ・ 日時：2015年2月25日 10:00～11:30
- ・ 会場：天龍寺 応接室
- ・ 出席選考委員／委員総数：4名／5名 1名欠席者は書面にて審査結果提出
- ・ 助成選考結果
採択件数2事業／470,000円助成決定

■ 事業指定助成プログラム第9期/第1期・3期・4期・6期・8期継続 助成選考会

- ・ 日時：2015年3月9日 16:00～18:00
- ・ 場所：京都地域創造基金 事務所
- ・ 出席選考委員／委員総数：6名／6名
- ・ 助成選考結果
第8期 寄付開拓コース合計1事業／2,420,000円（助成上限額）の助成を決定
第8期 通常コース 合計2事業／3,500,000円（助成上限額）の助成を決定
継続 寄付開拓コース 合計6事業／29,600,000円（助成上限額）の助成を決定
継続 通常コース 合計4事業／3,810,000円（助成上限額）の助成を決定

■ 城陽みどりのまちづくり基金 25年度助成選考会

- ・ 日時：2015年3月16日 19:00～21:30
- ・ 場所：京都地域創造基金オフィス
- ・ 出席選考委員／委員総数：5名／5名
- ・ 助成選考結果 合計4事業／435,000円 助成決定 1事業保留のため審査中

以上

2014年度きょうとふNPO活動支援融資制度およびきょうとNPO支援連携融資制度
公益性審査委員会 開催状況

- ・ 審査方法：公益性審査委員会の開催、または事務局による委員の個別訪問またはメールによる審査
- ・ 持ち回りによる審査を行った委員／委員総数：5名／5名（以下いずれも）

■きょうとふNPO活動支援融資制度

公益性審査は開催していない。

■きょうとNPO支援連携融資制度

- ・ 第7回 採否決定日：2014年5月29日
審査結果：公益性あり5件 金融機関審査後融資実行されれば利子助成行うことを決定。
- ・ 第8回 採否決定日：2014年7月22日
審査結果：公益性あり1件 金融機関審査後融資実行されれば利子助成行うことを決定。
- ・ 第9回 採否決定日：2014年9月8日
審査結果：公益性あり4件 金融機関審査後融資実行されれば利子助成行うことを決定。
- ・ 第10回 採否決定日：2014年12月8日
審査結果：公益性あり1件 金融機関審査後融資実行されれば利子助成行うことを決定。
- ・ 第11回 採否決定日：2015年1月22日
審査結果：公益性あり3件 金融機関審査後融資実行されれば利子助成行うことを決定。
- ・ 第12回 採否決定日：2015年3月23日
審査結果：公益性あり1件 金融機関審査後融資実行されれば利子助成行うことを決定。

以上